

「さよなら原発2025」山梨集会  
日時：3月8日（土）13時開会  
場所：甲府駅北口よっちゃばれ広場

第五福竜丸見学ツアー イベント情報  
日時：4月5日（土）  
行き先：東京都江東区夢の島公園内  
第五福竜丸展示館



《内容》日本被団協ノーベル平和賞受賞記念イベント / 平和のバトン（土井マチ子さん）  
／ わが町の平和活動 / ホームページスタート / 明眸

核なき世界へ 被爆者のバトンを次世代に

グラフ特集

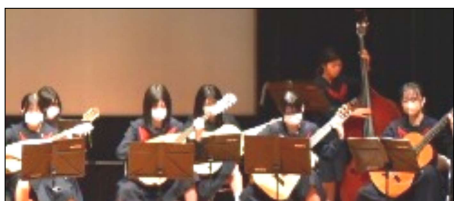
## 日本被団協ノーベル平和賞受賞記念イベント

2月2日、県立文学館に300人を超える参加者が集い、核廃絶に向けた決意を固めました。



司会を務めたのは清水俊弘地雷廃絶日本キャンペーン代表理事

【基調講演（家島昌志被団協代表理事）】  
政府は被爆者への補償をすべきだ。／被爆国日本の発言は重い。一日も早く核禁条約に参加すべき。／被爆二世三世と若い人が運動を引き継いでほしい。



英和中学、高校マンドリン部の皆さんが優しい音色を響かせてくれました。



【遠山睦子さん（山梨県原水爆被爆者の会役員）】  
兄は被爆死。中学生に話すと後の子に伝えたい。平和憲法があるのだから戦争しない方向に行ってもらいたい。

【内藤幹夫さん（進行役／山梨県原水爆被爆者の会事務局長）】語り部をしていた被爆者の父の後を継ぎ、教師として子どもたちに平和について語ってきた。



リレートーク

【島津あまねさん（山梨英和高校2年生）】ノーベル賞受賞式での田中熙巳被団協代表委員の話を聴き、核兵器や被爆の問題が現在進行形と実感。田中さんの言葉を大切にして活動していきたい。

いっぽ、いっぽ  
踏み出そう  
核兵器の終わりの始まりに  
一歩！



最後に若松さんが歌とギターで会場を一つにまとめてくれました。

【若松宏美さん（甲府共立病院医師）】放射能障害を前に医学は無力。ならば医師として核廃絶させねば。「反核医師の会」の若手グループ「いっぽプロジェクト」で様々な活動をしている。



【右田ゆずるさん（都留文科大学1年生）】「文学は戦争の対義語」という言葉に感動。戦争の悲惨さ、戦争の記憶を継承しようとする文学の力を信じて教壇に立ちたい。

【閉会挨拶（倉嶋清次実行委員長）】イベント全体を通して「核なき世界へ 被爆者のバトンを次世代に」というテーマは共有できたと思います。



卑屈で小心で、欲張りでこずるい、あまりの貧しさに人間性が歪められてしまった明治の小作人の姿・暮らしをリアルに描き出した長塚節の『土』。▼貧農の生活描写に慄きながらも、なぜこれが文学なのか、リアルなだけでは文学とは言えないのでは、ハイティーンの入口に立っていた私の疑問でした。▼収穫のほとんどが小作料と肥料を買うための借金で支払いに消えてしまった貧農の生活を支えていたのが出稼ぎでした。出稼ぎによる農村からの安い労働力の提供は、半封建的な寄生地主制を支え、寄生地主制は資本主義の急速な成長を支えていました。▼後年、作品を歴史の中に位置付け時代とどう切り結んでいたのか、人間の悲しみや苦しみをいち早く受け止め、問題提起していく文学の役割を知るにつけ、明治の作家・知識人が農民の生活に全く無関心だったなか文学としての『土』を認識しました。▼北村隆志さんらの共著『名作で読む日本近代史』は明治・大正の文学にふれる時、併読したい優れた文学案内でした。この本があったら当時の私の疑問はもっと早く解決したと思います。（絵）

明眸



今月は『日本被団協ノーベル平和賞受賞記念イベント』のオープニングで詩を朗読した土井マチ子さんに寄稿していただきました。

昨年12月10日「ノーベル平和賞授賞式」のテレビ中継を興奮しながら見ていた時、現地に高校生代表で参列した女生徒の感想インタビューに答える顔に釘付けになった。

「被爆者の方の篤い思いを直接お聞きできるのは私たちの世代が最後かもしれない。」

私たち一人ひとりは「無力」だけれど、でも私たちは決して「無力」！ではありません！その声に胸が震えました。「すごい！！」と叫んでしまいました。

その後先日2月2日山梨県立文学館講堂で催された『日本被団協ノーベル平和賞受賞記念イベント』のリレートークの席での高校生の発言でも、オスロの授賞式の時の高校生と全く同じ想いの言葉を聞くことが出来、私は未来に強い「確信」を持ちました。

二人の力では何も変わらないが、その一人が何か行動を始める事が・・・！そうだ、今小学生の妹に私が今気づいたことを『コトバ』として伝えられるチャンスが来た時のために、忘れず大切に心に留めておかねばならない、そういうふうに一人が一人に、伝えることで、未来を変えことにつながる！小さな一歩を踏み出そう！とトークを締めくくったのです。

### 被爆80年

原水爆は人間に対して何をしたか！

原水爆に対して人間は何をすべきか！

原水爆を作ったのも人間！

原水爆を使ったのも人間！

ならば

原水爆をなくすのも人間！

人間が責任をもたねばならないことだ！

心で、体で被爆の体験を聞いて、考えねばならない！

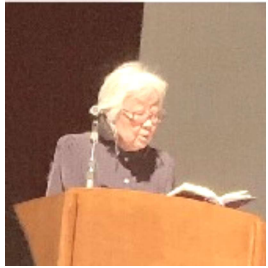
## 「無力」だけれど！「無力」ではない！！

### 平和のバトン

高校生の彼女たちが言うように、今、「その事に気づいた！」と一人が一人に伝えていこう！！

あの時、時の首相であった幣原喜重郎には哲学者ルソーの「人類は賢明なれど」「人間は愚かなり」の言葉が聞こえ『憲法9条』が百年後の世界の姿であることを確信して「愚かさ」の償いとしての尊い贈り物だったのではないだろうか？

残された20年で「賢明な人間」に改めるための責任を果たさねばならない。あと一歩！力を合わせよう！！



朗読する土井さん  
(2月2日)

### 「空中給油 中止を求める市民のつどい」

9条の会と平和委員会の共催で

2月8日(土)、甲府市で「空中給油 中止を求める市民のつどい」が、甲府北西9条の会、甲府市9条の会主催、甲府市平和委員会共催で開催されました。空中給油の写真を撮り続けている福田良二さんと甲府市議会議員の金丸三郎さんが報告。

中給油を甲府市上空で行うことを放置しては市民の安全を保証できないと12月議会でも質問し、今後は市議会で見解書などの提案をしていこうと考えていると話しました。

「陸地では行わない」と国会で答弁がされているにもかかわらず常態化しています。甲府市平和委員会では市に何度も中止を求める要請をし、安保破棄実行委員会や総がかり行動実行委員会は署名運動に取り組み、山梨県に要請しました。しかし、山梨県知事や甲府市長は「安全面に最大限配慮するよう求めている」などの回答で空中給油中止については全くふれていません。今回のつどいは甲府市議会議員5人と南アルプス市議会議員1人も参加しました。参加者からは、「貴重な映像をみせてもらえてよかった」「会派を超えての一点共闘ができる甲府市議会はすばらしい」などの意見がありました。

(坂上玲子)



### わが町の平和活動

南アルプス市九条の会は2月8日、北杜市在住の中島一さんを招き、講演会を開催し、報道では語れない沖縄の現状について学びました。中島さんが沖縄の問題に取組むようになったきっかけは、沖縄以外の国民は沖縄を犠牲にし、沖縄の選挙権を奪い、沖縄県民

に負担をさせていることを知ったからだと言います。ひとりで辺野古に通い、埋め立て工事を遅らせるため海上でボートや船で情報を把握している」と自衛隊に阻止されるを繰り返しています。砂利搬入口では、昨年の死亡事故を受けて以降人を入れ

させない対応になり、搬入車も増加。環境保護と称した珊瑚礁の移植もおさなりな方法で、白化が進んでおり、逆に環境破壊だと言いま

### 南アルプス市で学習会『沖縄の今』

こえてくるのが悲しい」と他国の友人と連帯し活動していること、また移住して沖縄で活動する若者達の会も紹介されました。講演を受け、遠隔地に住んでいるが自分事として考える戦争反対の行動が必要などの意見が出されました。(河村ゆかり)

### 自衛官の募集に関する署名に取組もう！！

- ①奈良地裁に違憲・違法の判断を求める署名
- ②国に名簿提供の要求及び住民台帳の閲覧の中止を求める署名

※平和委員会独自の活動。訪問と対話で！！

署名用紙は挟みこんであります

### ホームページができました

「山梨県平和委員会」で検索してください。  
URLは「[yamanashipeace.com](http://yamanashipeace.com)」。こちらで検索してもOK。



### 楽しいのはアンタたちだけ！

